

検討の進め方について(案)

1. 新技術に対応した整備技術の高度化のあり方

近年の新技術の利用の広まりに対応し、汎用型のスキャンツールの活用促進や整備要員の技能向上等の人材育成が求められていることを踏まえ、克服すべき課題の検討状況を見つつ、整備技術の将来像を見据えた検討を行う。(別紙1)

2. 新技術に対応した整備技術の高度化に向けて当面克服すべき課題

(1) 「汎用スキャンツール普及検討会」がとりまとめた標準仕様の検証

「汎用スキャンツール普及検討会」がとりまとめた標準仕様による試作機を製作し、市場で使用するにより、品質面の向上等、標準仕様の改善点等を把握し、検証を行う。

【進め方】

(社)日本自動車機械器具工業会、(社)日本自動車整備振興会連合会、日本自動車車体整備協同組合連合会、全国自動車電装品整備商工組合連合会等の協力を得て、データ取得を行い、その結果を踏まえて標準仕様の検証を行う。(夏に調査方法のフィージビリティスタディを行い、秋に3ヶ月程度調査を実施。なお、データ取得を行う際の調査票(案)は、別紙2のとおり。)

(2) 大型車(ディーゼル商用車)のスキャンツール活用に向けた検討

①大型車(ディーゼル商用車)の技術講習の実施に向けた環境整備を図ることや
②作業サポート(DPFの強制燃焼等)等、スキャンツールに係る情報提供のあり方、標準仕様について検討を行う。

【進め方】

自動車メーカー、ツールメーカー、整備事業者等からなるWG(事務局:(社)日本自動車整備振興会連合会)を立ち上げ、検討を行う。

(3) スキャンツールに対応した研修の拡充・創設

①整備主任者研修において、汎用スキャンツールの初歩的知識を習得できるようにするとともに、②整備事業者業界による任意研修の創設に向け、自動車メーカー、ツールメーカー、整備事業者等で検討を進める。

【進め方】

関係者間において検討を行い、進捗状況を適宜報告する。(検討の進め方は別紙3のとおり。)

(4) 資格制度（自動車整備士制度）の活用方策の検討

整備の現場で対応が必要となる新技術等、整備事業の現場の状況を十分に把握し、カリキュラムや教材等、養成施設の状況も踏まえ、①新技術に対応した、一・二・三級整備士の果たす役割を整理するとともに、②整備士に求められる知識や技能を整理した上で、下級種目から上級種目へ順次育成出来るような方策等を検討する。

【進め方】

自動車メーカー、自動車整備士養成施設、整備事業者等からなるWG(事務局:(社)日本自動車整備振興会連合会)を立ち上げ、検討を行う。

(5) その他

議題に応じ随時対応。